「わたしたちの町にやさしさの輪を」

安城市立安城北部小学校

1　実践

５年生児童は、総合的な学習の時間に「私たちの町にやさしさの輪」をテーマに福祉の学習に取り組んだ。

(1) ８０年後の自分　－高齢者疑似体験－

高齢者疑似体験ボランティア　「たけうま」の方を講師に招いて高齢者疑似体験を行った。

まず、児童は高齢者と同じ状況になるために、手袋、ひじあて、ひざあて、手首や足首におもり、首かけ、ゴーグル等を身に付けた。その後、グループに分かれて次の９つの体験を行った。①読書をする。②はしを使っておはじきをつかむ。③階段を上がる。④トイレに入る。⑤水道の蛇口をひねる。⑥階段を下りる。⑦外の景色を見る。⑧聞き取りテストをする。⑨お茶を飲む。

【高齢者疑似体験をする児童Ａ】

(2) 老健「さとまち」って、どんなところ

学区にある介護老人保健施設「さとまち」作業療法士の高橋さんを招いて「福祉の知識とお年寄りにしてあげられること」と題した講演会を行った。交流会に向けて、老人保健施設とはどのようなところか、「さとまち」で暮らす高齢者はどのような方なのか、「さとまち」で取り組んでいるプログラムなどの話をしていただいた。そして、最後に「さとまち」で行っているリハビリ体操を児童みんなで覚えた。

【交流会でけん玉をする児童】

(3)　介護老人保健施設さとまちの方との交流会

学級ごとに老健さとまちを訪問し、お年寄りの方たちと交流会を行った。

内容は、最初に全員でリハビリ体操を行い、その後、各学級で考えたプログラムに従って会を進行した。司会やゲームの説明なども全て児童が行った。５年４組では、紙芝居や昔遊び（けん玉、お手玉など）をグループに分かれて、お年寄りの方と楽しく行った。

2　成果と課題

当初、高齢者の方や福祉についてあまり関心のなかった児童Ａは、高齢者疑似体験や老健さとまちとの交流会を通して次のような感想をもった。今後は、児童が自分たちの町でできることを見つけ、やさしさの輪が広がるような実践につなげていきたい。

【児童Ａの授業後の感想】

ぼくは、高齢者疑似体験を行って、お年寄りってこんなに大変なんだと思いました。階段の上り下りやトイレに入ること、お茶を飲むことも一人ではとても大変だということがよく分かりました。これからは、気がついたときは、進んでお手伝いをしてあげたいと思いました。

【保護者の声】

息子が、さとまちとの交流会の後、家でもおじいちゃんに優しく声をかけたり、進んでお世話をしたりする姿が見られるようになりとてもうれしく思います。

【老健のスタッフの講和を聞く児童】

【ほくとまつり　点字ブロック体験コーナー】

【ほくとまつり　白杖体験コーナー】

【自作の介助用品】

【ほくとまつり　車いす体験コーナー】

【ほくとまつり　盲導犬について説明する児童】

【ほくとまつり　福祉マークカルタ取りコーナー】

【ほくとまつり　３拓クイズ形式で説明する児童】